

第三次富士河口湖町観光立町推進基本計画 第2回 観光みらいWG

2026年10月1日

本日のゴール

「自分たちで動かせるプロジェクト」を考える

今日は、行政や関係団体に「やってほしいこと」ではなく、自分たち同士で「できること」を考える場です。

誰と組むか、実現に向けて何をするかまで具体的に考えていきます。

班ごとのマスト課題（1つ目のプロジェクトはここから。2つ目は自由）

A 班

河口湖への集中・周遊／二次交通・移動

周遊が広がらない、早朝送迎の負担、駅前の混乱、渋滞。
アイデア No.1～7 or 新規（別紙A3参照）

B 班

住民の理解・恩恵の見える化

観光の恩恵が町民に見えない。
アイデア No.20～23 or 新規（別紙A3参照）

本日の進め方（10:00～12:00／120分）

10:00～10:10 10分	オリエンテーション	前回の振り返り／課題とアイデアの一覧／町の課題整理
10:10～10:25 15分	ワーク① 取り上げるアイデアを決める	一覧のNoに○。新しいアイデアも歓迎。マスト+自由の2つ
10:25～10:55 30分	ワーク②-1 プロジェクト1（マスト課題）	シートに付箋で（直接書いてもOK）
10:55～11:20 25分	ワーク②-2 プロジェクト2（自由）	10:55に事務局が合図して切り替え
11:20～11:30 10分	仕上げ	書き足し。余裕があれば3つ目に着手
11:30～11:50 20分	発表・共有	各班8分（1プロジェクト4分）+コメント
11:50～12:00 10分	講評	

■日程

2026 年 7月15日(水) 14:00～16:00

■場所

富士河口湖町役場 コンベンションホール

■議事

1. あいさつ
2. 観光みらいWG開催の趣旨
3. インプット：「富士河口湖町をとりまく現状」とは
4. ワーク「VICEの4視点で富士河口湖町の観光課題を整理」
 - 【全体説明】ワークの進め方説明（10分）
 - 【アイスブレイク】自己紹介等（10分）
 - 【ワーク】 グループワーク（55分）
 - 【全体共有】各チーム代表者による「全体共有」（15分）
5. まとめ

■参加者

A班	大石観光協会
	勝山観光協会
	河口湖温泉旅館協同組合青年部
	河口湖温泉旅館協同組合青年部
	富士河口湖町役場（事務局）
	（公財）日本交通公社（事務局）
B班	小立観光協会
	河口湖温泉旅館協同組合青年部
	河口湖温泉旅館協同組合青年部
	（一社）富士河口湖町観光連盟
	富士河口湖町役場（事務局）
	（公財）日本交通公社（事務局）
欠席	北河口湖観光協会
	西湖観光協会

VICEの視点で「目標・現状・課題」を整理したグループワークから、主な意見を抜粋しました。

A 班

V 来訪者

- ・富士山目的の集中を、複数エリアを巡る観光地へ
- ・駅周辺の動線整理と情報提供
- ・自転車の走行マナー、トイレマナー、ゴミ箱と回収体制
- ・大石公園周辺の道路整備と新たな拠点化

I 事業者・産業

- ・夕食提供の不足。飲食店との連携、郷土料理、域内調達
- ・新規参入のハードル。若い世代が参入しやすい環境
- ・「稼げる産業」への再定義、待遇改善
- ・人手不足、外国人スタッフの住宅、大学等との連携

C 地域住民・社会

- ・富士山への住民理解を深めるイベント
- ・従業員向けの保育（土日）の充実
- ・生活環境（民地立入・ゴミ）とのバランス
- ・観光教育、地域全体で観光を支える体制、景観条例

B 班

V 来訪者

- ・国際的なブランド都市へ。個性的なサービスに挑戦できる環境
- ・夜間コンテンツ（ライトアップ、湖面への映像）
- ・大橋を使った大胆なイベント
- ・移動弱者に優しい交通、P&R、混雑情報のオープン化

C 地域住民・社会

- ・観光の恩恵を再認識し、可視化する。町民の誇りへ
- ・観光の仕事の待遇を日本一の水準に
- ・観光地であることを受け入れるマインドセットへ
- ・宿泊税で子育て世代の保育を支援、給食など子育て支援を移住・働き手確保に
- ・観光還元券で住民が恩恵を直接実感できる仕組み

これまでに出了課題と取組アイデア（1/2）

第1回WGと事後課題で出了課題を、VICEの枠組みで整理しました。別紙のA3資料と同じもの。

課題（皆さんの言葉から）	No	取組アイデア	出どころ
V ★ A班マスト課題 河口湖への集中・周遊が広がらない／二次交通・移動（送迎負担、駅前、渋滞）	1	エリア共同送迎バス（予約制・複数施設で共同利用）	事後課題
	2	町内巡回バスの増便・宿泊施設送迎の共同運行	事後課題
	3	駅前の人流を用途別に再設計（バス・送迎・タクシーの整理）	事後課題
	4	混雑情報のリアルタイム共有（飲食・観光地・交通）	事後課題
	5	オープントップ観光バス（移動の観光コンテンツ化）	事後課題
	6	公式観光サイトへの情報集約（各施設から情報提供）	事後課題
	7	P&R（郊外駐車場＋シャトルバス）	第1回WG
V 案内・情報の不足（トイレ、夕食、自転車）	8	公共トイレマップ・夕食スポットマップ	事後課題
	9	自転車利用マップ・レンタサイクル案内	事後課題
V 滞在が短い。夜の過ごし方がない	10	河口湖大橋のライトアップ・湖面プロジェクション	事後課題
	11	大橋を使った大胆なイベント（ファッションウィーク等）	第1回WG
I 食・飲食（夕食の提供不足、域内調達、郷土料理）	12	飲食店との連携・夕食情報の提供	第1回WG
	13	一次産業と連携した域内調達率の向上	第1回WG
	14	郷土料理の提供強化	第1回WG
I 人手不足・働く環境（保育、待遇、住宅）	15	観光業サポート保育・学童（土日祝対応・組合の福利厚生化）	事後課題
	16	高賃金化・行政による積極サポート	事後課題
	17	宿泊税で運営する幼稚園・保育園	事後課題
I 子育て・移住（公園、遊び場、給食）	18	「子育てしたい町」（公園・遊び場の整備など）	事後課題
	19	給食の質・無償化を町HPで発信	事後課題

出どころ：事後課題＝第1回WG後の宿題で提出されたアイデア／第1回WG＝7/15のグループワークでの議論

これまでに出了課題と取組アイデア（2/2）

第1回WGと事後課題で出了課題を、VICEの枠組みで整理しました。別紙のA3資料と同じもの。

課題（皆さんの言葉から）	No	取組アイデア	出どころ
C ★ B班マスト課題 住民の観光への理解不足。恩恵が見えない	20	「120%観光宣言」（町を挙げた歓迎の意思表示）	事後課題
	21	住民広報・観光の恩恵の見える化	事後課題
	22	観光以外の企業とも連携し、メリットを生む仕組み	事後課題
	23	観光還元券（住民が恩恵を実感できる仕組み）	第1回WG
C 観光教育・次世代の担い手	24	小中学生への観光教育・事業者での実地体験	事後課題
	25	中学生との紅葉まつりゴミ拾いの継続・拡大（昨年、観光連盟と河口湖北中で実施）	事後課題
C 生活環境・マナー（ゴミ、トイレ、自転車、民地立入）	26	ゴミ箱の設置・回収体制の見直し	第1回WG
	27	観光客へのマナー啓発（多言語）	第1回WG
	28	自転車ルールの人への告知	事後課題
E 景観・環境の保全	29	景観を守る条例（※町には景観条例あり。参考として記載）	第1回WG

※ 提言として記録するもの：平和宣言・外国人材の在留資格要望（事後課題）／新規参入のハードル解消、地域全体で支える推進体制（第1回WG）

※ 一覧にないアイデアでもかまいません。「自分たちで動かせるか」を軸に選んでください。

町が第三次計画に向けて整理している観光課題です。出典に「WG」の印があるものは、皆さんの意見を反映した課題です。

Visitor（来訪者）		
課題	内容	出典
V1 時期・エリアへの集中	訪問先は河口湖畔（訪問率81.5%）に偏り、半数超は河口湖周辺のみで旅行が完結。ピーク時は道路・駐車場に負荷が集中する一方、西部エリア・閑散期には誘客余地（オーバーとアンダーの混在）	統計 SWOT 旅行者⑦ 事業者⑦
V2 周遊・二次交通	自家用車依存（日本人の約7割）で渋滞。二次交通が脆弱で駅周辺動線も未整理。移動弱者への配慮や混雑情報の見える化も不足	統計 WG 事業者⑦
V3 滞在促進・夜間コンテンツ不足	1泊以下の滞在が主流。ナイトタイム等の滞在コンテンツが不足し、滞在時間・消費が伸びない	SWOT WG 事業者⑦
V4 体験の質・満足度の偏り	風景・自然への満足は高い一方、混雑・トイレ・移動・飲食など受入環境面の満足度が低い。「量から質へ」の転換が必要	旅行者⑦ 推進会議
V5 客層の偏り	日本人宿泊はコロナ禍前を大きく下回り（144万/211万人泊）、インバウンド依存が進行。国内は関東圏偏重で、特定市場への依存リスク	統計 推進会議 WG
Industry（事業者・産業）		
課題	内容	出典
I1 人手不足・担い手確保	宿泊業を中心に採用難。土日・早朝夜間など観光業の就労実態に合った子育て支援の周知・利用が課題	WG 推進会議 事業者⑦
I2 老朽化・設備更新と投資余力	施設の老朽化・設備更新が経営課題の最多（事業者アンケートで1位・40%）。更新に向けた投資余力・資金調達に課題	事業者⑦
I3 食・飲食の弱さ	宿泊者の夕食提供が不足。飲食店との連携、一次産業との連携・域内調達率、郷土料理の提供に課題	WG
I4 参入の担い手・参入後の成長支援	統計上は新規参入が活発（着工増・事業所増）。課題は「参入の壁」よりも、地元・若い世代の担い手確保と、参入後の成長・質の向上への支援	WG 統計
I5 経営の高度化	高付加価値化・デジタル対応・日本人客への訴求（単価向上・施設改修への投資意欲は高い）	WG 事業者⑦

出典の印：統計＝各種観光統計／SWOT＝現状分析／旅行者⑦・事業者⑦＝アンケート／推進会議／WG＝観光みらいWG

町が第三次計画に向けて整理している観光課題です。出典に「WG」の印があるものは、皆さんの意見を反映した課題です。

Community（地域住民・社会）		
課題	内容	出典
C1 観光への理解・受容	観光の恩恵が住民に見えておらず、観光客への拒否反応も。経済波及効果など「メリットの見える化」が未実施	推進会議 WG
C2 住民生活への影響・観光マナー	観光客のマナー・ルール（自転車走行・トイレ利用・ごみのポイ捨て等）や民地への立入り・渋滞など、生活環境の圧迫。観光と住民生活のバランス確保	WG SWOT 推進会議 事業者⑦
C3 観光教育・世界文化遺産富士山の理解	住民（大人含む）の世界文化遺産富士山への理解不足。子どもへ地域の価値を伝える観光教育機会の不足	WG 推進会議
Environment & Culture（環境・文化）		
課題	内容	出典
E1 富士山・湖・景観の保全	魅力の源泉である自然・景観を守る取組の継続が必要。湖畔の美観維持や眺望の確保・整備が課題	WG SWOT
E2 文化的価値の継承	世界文化遺産富士山の文化的価値（御師・神社・湖・名水・信仰・歴史）の継承・活用が必要	推進会議 WG
E3 環境負荷への対応（⇔C2）	ごみ・トイレ等の環境負荷への対応	WG 旅行者⑦
Base（基盤強化）		
課題	内容	出典
B1 推進組織（DMO機能）	「ビジョン・財源・組織」のうち組織が不足。データ分析・戦略立案・連携を担う公益的機能（観光連盟のDMO化等）の議論が必要	推進会議
B2 データ・統計基盤	直近動向の把握に時差（速報性の欠如）。経済波及効果の推計も未実施	推進会議
B3 危機管理（レジリエンス）	市場変動（特定国の減少等）・災害・風評への耐性	推進会議

出典の印：統計＝各種観光統計／SWOT＝現状分析／旅行者⑦・事業者⑦＝アンケート／推進会議／WG＝観光みらいWG

町が第三次計画で重点課題として提案する3つです。

特に、「①周遊改善」と「②住民理解」については、本日のワークのマストの課題です。

1. 本計画の重要課題 —— 3つの重点課題と「量から質への転換」



- 観光課題は分野ごと（VICE+B）に整理したが、実際に取り組むうえでは、分野を横断する重点課題を定めて集中的に進めることが必要。
- 事務局案は次の3つであり、**これらを解決していくことそのものを、本町における「量から質への転換」と定義したい。**

重点課題と、その根拠

= 本町が目指す「質」

「質」を測るものさし（案）

A班マスト

① 周遊改善 河口湖への集中と自動車依存を解きほぐし、町全体へ広げる

- 訪問先は「河口湖」81.5%が突出。半数超は河口湖周辺のみで旅行が完結
- 自家用車72.6%。リピーターほど依存が強まる（初回58%→4回目以上82%）
- 旅行者・事業者の双方が「渋滞」「二次交通」を最大の課題に挙げる

■関連施策

V-1 周遊・分散/V-2 交通・受入環境/V-3 滞在・夜間/E-1 景観保全

訪問者にどのような楽しみ方をしてほしいか

町全体を周遊してもらい、
移動や混雑のストレスなく、
満足度高く過ごしてもらう

- 旅行者の満足度・推奨度（NPS）
- 町内の周遊（訪問箇所数・西部エリア訪問率）

B班マスト

② 住民理解 観光の恩恵を町民が実感でき、生活と両立する状態をつくる

- 観光の経済効果・税収効果が町民に十分伝わっていない（推進会議・WG）
- 渋滞・ごみ・マナーなど生活環境への影響が、観光への拒否感の源泉に
- WGでは「観光に関わる仕事の待遇・誇り」「恩恵を実感できる仕組み」が課題

■関連施策

C-1 恩恵の見える化/C-2 生活環境・マナー/C-3 観光教育/E-3 環境負荷

来訪と住民生活を、どう両立するか

観光客が訪れることと
住民が観光に理解を持てることを両立し、
恩恵を実感できる状態に

- 住民の観光への評価・満足度
- 町民が観光の恩恵を実感している割合

③ 推進体制強化 計画を「回す」担い手と司令塔をつくる

- 「ビジョン・財源・組織」のうち組織が不足。分析・戦略立案を担う機能がない
- 施策に「誰がいつやるのか」の推進主体が明示できていない
- 観光連盟のDMO化を含め、行政と二人三脚で地域をマネジメントする組織が必要

■関連施策

B-1 推進体制（DMO機能）/B-2 データ基盤/B-3 危機管理

それを、誰が支えていくのか

計画を実行し続ける推進体制
（DMO機能・データ基盤）をつくり、
取組を継続できるようにする

- 観光立町推進会議の定例開催

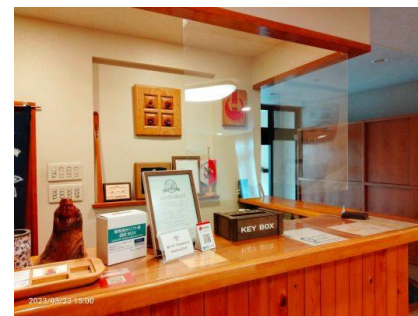
※ 来訪者数や消費額の増加そのものではなく、これらの指標が高まることを成果としたい。

行政の研修事業として始まり、いつしか事業者自身が主役になって続いている「宿泊イノベーションチーム」の取組です。

きっかけ	村の研修事業として開始（2020年～） 宿泊施設約900、村民の4割が宿泊業。経営者の高齢化・後継者不足を背景に、村観光課が「宿泊産業イノベーション研修」を開始。約20名の宿泊事業者が応募して参加（事務局：JTBF）
転換	「学ぶ」から「自分たちで動く」へ 研修の中で、参加者がグループごとに自分たちの取組を企画。事業者同士で「白馬村宿泊イノベーションチーム」を結成し、村の宿泊シンポジウムを主催
いま	自分たちで資金を取り、続けている 「歯ブラシは持参で」と呼びかける「脱・使い捨てアメニティ宣言」の宿を募集（36施設が参画）。地元農産物を使った白馬ブランドアメニティの開発に着手。県の支援金を自ら申請し、月1回の会合を継続。メンバーは10名→29名に

富士河口湖町に置き換えると

きっかけは行政でも、動かすのは自分たち。「まず数軒で集まる」「宣言して呼びかける」。本日のシートの⑤⑥は、この最初の一步を書く欄です。



研修の案内／宣言ステートメントを掲げる宿／「脱・使い捨てアメニティ宣言」の宿ステッカー



ワーク① 取り上げるアイデアを決める（10:10～10:25）

- 課題・アイデア一覧（A3）を見ながら、プロジェクトにするアイデアを2つ決めます。
- 新しいアイデアも大歓迎です。

課題・アイデア一覧		取り上げるアイデアのNo.に○ 新しい案は右の欄に付箋で（30、31…と番号を）	
課題（皆さんの言葉から）	No	取組アイデア	追加アイデア・メモ（付箋）
★A班マスト課題 河口湖への集中・周遊が広がらない／二次交通・移動（送迎負担、駅前、渋滞）	1	エリア共同送迎バス（予約制・複数施設で共同利用）	学校課題
	2	町内巡回バスの増便・宿泊施設送迎の共同運行	学校課題
	3	駅前の人流を用途別に再設計（バス・送迎・タクシーの整理）	学校課題
	4	混雑情報のリアルタイム共有（飲食・観光地・交通）	学校課題
	5	オープントップ観光バス（移動の観光コンテンツ化）	学校課題
	6	公式観光サイトへの情報集約（各施設から情報提供）	学校課題
	7	P&R（郊外駐車場＋シャトルバス）	第1回WG
V 案内・情報の不足（トイレ、夕食、自転車）	8	公共トイレマップ・夕食スポットマップ	学校課題
	9	自転車利用マップ・レンタサイクル案内	学校課題
V 滞在が短い、夜の過ごし方がない	10	河口湖大橋のライトアップ・画面プロジェクション	学校課題
	11	大橋を使った大規模イベント（ファッションウィーク等）	第1回WG
I 食・飲食（夕食の提供不足、城内調達、郷土料理）	12	飲食店との連携・夕食情報の提供	第1回WG
	13	一次産業と連携した城内調達の向上	第1回WG
	14	郷土料理の提供強化	第1回WG
I 人手不足・働く環境（保育、待遇、住宅）	15	観光業サポート保育・学童（土日祝対応・組合の福利厚生化）	学校課題
	16	高賃金化・行政による積極サポート	学校課題
	17	宿泊税で運営する幼稚園・保育園	学校課題
I 子育て・移住（公園、遊び場、給食）	18	「子育てしたい町」（公園・遊び場の整備など）	学校課題
	19	給食の質・無償化を町HPで発信	学校課題
★B班マスト課題 住民の観光への理解不足、恩恵が見えない	20	「120%観光宣言」（町を挙げた歓迎の意思表示）	学校課題
	21	住民広報・観光の恩恵の見える化	学校課題
	22	観光以外の企業とも連携し、メリットを生む仕組み	学校課題
	23	観光還元券（住民が恩恵を実感できる仕組み）	第1回WG
C 観光教育・次世代の担い手	24	小中学生への観光教育・事業者での実地体験	学校課題
	25	中学生との紅葉まつりゴミ拾いの継続・拡大（昨年、観光連盟と河口湖北中で実施）	学校課題
C 生活環境・マナー（ゴミ、トイレ、自転車、民地立入）	26	ゴミ箱の設置・回収体制の見直し	第1回WG
	27	観光客へのマナー啓発（多言語）	第1回WG
	28	自転車ルールの大人への告知	学校課題
E 景観・環境の保全	29	景観を守る条例（※町には景観条例あり。参考として記載）	第1回WG

出どころ：事後課題＝第1回WG後の宿題で提出されたアイデア 第1回WG＝7/15のグループワークでの議論
※調査として記録するもの：平和宣言・外国人材の宿泊費助成（事後課題）／新観光参入のハードル解消、地域全体で支える推進体制（第1回WG） ※一覧にないアイデアでもかまいません。「自分たちで動かせるか」を軸に選んでください。

課題・アイデア一覧（A3・各班1枚）

5分 一覧を眺める

気になるアイデアのNo.に○。
新しい案があれば右の欄に付箋（30、31…と番号を）

5分 1つ目：マスト課題から

A班はNo.1～7、B班はNo.20～23の中から。
新しい案でも可

5分 2つ目：自由に

一覧のどの課題からでも、新しい案でもよい。

選ぶときの3つの視点

- ☐ 自分たちが「やりたい」と思えるか
- ☐ 組める相手の顔が浮かぶか
- ☐ 来月、一歩踏み出せるか

一覧にないアイデア、大歓迎です。

今日考えるのは「行政や関係団体にやってほしいこと」ではなく、「自分たち同士でできること」です

行政に担ってほしい部分があれば、シートの「役割分担」に書けば十分です。「完璧な計画」より「来月動き出せる小さな一歩」を。

ワーク② プロジェクトシートを書く（10:25～11:20）

1プロジェクト=A0シート1枚。付箋でも、直接書き込みでもOK。プロジェクト1を30分、10:55の合図でプロジェクト2へ。

プロジェクトシート			班名
① プロジェクト名			
② 解決する課題			
③ 具体的な内容			
④ 実施場所・時期		⑤ 役割分担	
⑥ 実現に向けてすべきこと			
最初の一步（来月できること）	次のステップ	その先	
⑦ ヒト・モノ・カネの課題		⑧ その他	

書けたら「このプロジェクトが動いたら、町はどう変わるか」を一言で。発表の締めになります。

進め方のルール

■ 付箋でも、直接書き込みでもOK

付箋は1枚に1つのこと。太いペンで大きく。
貼り直せるので、まず書いて貼る

■ ②は自分たちの言葉で

一覧のキーワードを写すのではなく、誰のどんな困りごとかを書く

■ ⑤と⑥がいちばん大事

「誰と」「まず何を」が書けていれば、動き出せる

■ 10:55で切り替え

事務局が合図。プロジェクト1は一旦置いて2へ。仕上げる時間で戻れる

(参考) プロジェクトシートの記入例

付箋は短い言葉で。①④のように直接書き込んでもかまいません（事後課題のアイデアをもとにした例）。

プロジェクトシート		班名	
① プロジェクト名		エリア共同送迎バス	
② 解決する課題		早朝送迎が各宿の負担 人手不足で回らない 車がない客は動けない	
③ 具体的な内容		近隣の宿で共同運行 駅⇄北岸を予約制で 繁忙期の週末に試行 前日予約で人数把握	
④ 実施場所・時期		河口湖駅～北岸エリア / 来春創成体から	
		宿：ニーズ取りまとめ 組合：参加施設の調整 交通事業者：車両・運転手 町：法令面の確認	
⑥ 実現に向けてすべきこと			
最初の一步（来月できること）	次のステップ	その先	
来月、北岸の宿3～4軒で集まる	年内にルート試算・交通事業者に打診	来春、週末限定で試行	
⑦ ヒト・モノ・カネの課題		⑧ その他	
車両と運転手 費用負担のルール		混雑情報の共有と組合せ	

2つのプロジェクトを各班、合計8分で発表しましょう。

発表のポイント

プロジェクト名と解決する課題 / 誰と誰が組むか /

実現に向けて何をするか / 動いたら町はどう変わるか

講評（11:50～12:00）

※富士河口湖町より